

## 平成24年度四手井綱英記念賞 選考理由

### 受賞対象論文

秋田耕佑・平井規央・石井 実, 2011, 大阪府南部におけるコガタブチサンショウウオ *Hynobius yatsui* Oyamaの分布と生息環境. 関西自然保護機構会誌, 33 (1) : 15-23.

### 選考理由

大阪府のコガタブチサンショウウオは、金剛山地から和泉山脈に生息することが知られていたが、詳しい分布までは明らかにされていなかった。1978年の第2回自然環境保全基礎調査では、大阪府内のコガタブチサンショウウオ（当時はブチサンショウウオ）の産地として、千早赤阪村、和泉市、貝塚市が、「南部の金剛和泉山地」としてあげられている。これが大阪府におけるコガタブチサンショウウオの分布に関する知見のほぼすべてであった。

「大阪府における保護上重要な野生生物 大阪府レッドデータブック」（2000年）においても、コガタブチサンショウウオ（当時はブチサンショウウオ）を準絶滅危惧種に選定しているが、その生息状況については「府内では南部の山地に分布しているが、個体数は少ない」と記述するにとどまっている。本論文は、従来生息地とされていた金剛山地から和泉山脈において、これまで知られていなかった新たな生息地を確認し、大阪府内におけるコガタブチサンショウウオの分布に大きな知見を与えた。これはレッドデータブックの改訂において、きわめて重要な情報となる。さらに、コガタブチサンショウウオの生息環境条件を考える上でも貴重な情報を提供し、本種の保全に貢献するものである。

以上のことから、本誌第33巻1号に掲載された論文「大阪府南部におけるコガタブチサンショウウオ *Hynobius yatsui* Oyamaの分布と生息環境」を高く評価し、平成24年度四手井綱英記念賞を授与することとした。

関西自然保護機構編集委員会  
四手井賞選考委員会

# 四手井綱英記念賞に関する内規

関西自然保護機構運営委員会

関西自然保護機構は設立目的の完遂と更なる発展を期し下記の賞を定める。

## 記

### 1. 名 称

四手井綱英記念賞（略称、四手井賞）とする。

### 2. 対 象

地域自然史と保全へ秀逸な論文等の著作物を寄稿しそれが会誌に掲載された個人、グループ、および共同執筆者とする。

### 3. 選 考

運営委員会のもとに賞選考委員会を設ける。受賞者は選考委員会の推薦に基づき運営委員会が決定する。

### 4. 顕 彰

- 1) 記念賞の受賞者には賞状を贈呈する。
- 2) 別に副賞の基金を定めてこれを運用し副賞の基金運用期間内で副賞 5 万円を贈呈する。

### 5. 副賞の基金

関西自然保護機構名誉会員四手井綱英先生が第 3 回松下幸之助花の万博記念賞受賞の際に関西自然保護機構に譲金された80万円を運用して基金とする。

### 6. 副賞の基金運用および顕彰の期間

副賞の基金残額が零円となるまでの期間を副賞運用期間とし副賞の基金残額が零円となった時点で副賞の顕彰を取り止める。

平成16年 4 月15日制定

平成20年 3 月20日改訂

2013年 3 月12日

亀岡市長 栗山 正隆 様

関西自然保護機構会長 石井 実  
大阪市東住吉区長居公園 1-23  
大阪自然史センター気付

## 亀岡市保津町上中島における専用競技場の建設に関し アユモドキをはじめとする淡水生物群集の保全への配慮の要請

平素よりアユモドキの保全活動をはじめとする市域の生物多様性の保全活動にご参画・ご協力に敬意を表します。私たち関西自然保護機構は自然環境保全に関する各分野の研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざし、近畿地方における自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザー・ボディ（助言勧告機関）として、社会の要請にこたえることを企図している専門家集団です。

今般、新聞報道により、亀岡市が計画している大規模スポーツ施設（亀岡市ホームページ、2013年 1 月30日閲覧）が京都府により採択された、との報に接しました。

ご承知のように、当該地域は、国の天然記念物であり、種の保存法により「国内希少野生動植物種」に指定されているアユモドキの生息地です。さらに、同種は京都府「絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」の指定希少野生生物であり、当該地域では地域住民との協働による「アユモドキ保全回復事業」が実施されています。同種は過去には城北ワンドなど、淀川水系の多くの場所で確認されていましたが、近年はこれらのすべての生息地において絶滅し、亀岡市保津町地域が淀川水系唯一の同種の生息地となっています。この地域には付近の河川・用水路・水田が一体となった湿地生態系が維持されており、カワモズクなど多くの希少生物が生息する生物多様性の保全上重要なホットスポットになっています。

当該地域において、アユモドキをはじめとする淡水生物群集が将来にわたって健全に維持され、「京都が誇る自然との共生スタジアム」を実現し、市民や水や緑が真に共生できるものとなるためには、現在計画されている競技場周辺3.6haの環境共生ゾーンの設置等の保全策によって、アユモドキの地域個体群の保全が保証される必要があります。そのために、本会は以下のような配慮を要請します。

1. 生活域、産卵場所、水の流入や流出を含め、アユモドキの生息場所への影響を最大限回避した形でのスポーツ施設の用地計画における再検討・再検証を要請します。また、現在の保全対策では、当地域のアユモドキ個体群が保全されるという保証はないと思われますが、共存が可能という現時点での判断根拠を示して下さい。

アユモドキの産卵条件は非常にデリケートな条件に左右されており、土木工事や営農の停止によって簡単に損なわれてしまいます。したがって、現在の生息域を保全することから検討すべきであると考えます。開発にともなう生物多様性への悪影響を代償生息場所の確保によって補うノー・ネットロスの考え方でも、まずは影響の回避から入るべきです。

2. 関係省庁との十分な連携・調整を要請します。

アユモドキは単に絶滅危惧種ではなく、文化財保護法や種の保存法、京都府条例などにより位置づけられた存在であり、文化財保護法では生息地の改変も許可可事項となっています。京都府や亀岡市をはじめとする関係機関の連携や調整は本種の保全にとって必須と考えています。

3. 専門家委員会の設置を要請します。

アユモドキをはじめとする淡水生物群集の保全のためにどのような配慮が必要か、専門家の意見を十分に反映して計画策定を行い、さらにモニタリングと順応的管理をしながら保全施策を推進するためにも、専門家委員会の設置を要請します。なお、関西自然保護機構としても協働する覚悟があることをお伝えします。

## 「地域自然史と保全」投稿規定

- 1 **刊行の趣旨** 関西自然保護機構は、「関西地方を中心とする自然の保護と自然環境の保全の方策を調査し、研究し、必要な提言、助言を行う」（本会会則第2条）ことを目的としており、会誌として「地域自然史と保全」（以下会誌という）を年2回刊行し、自然保護と保全に関する研究成果や基礎資料・情報を発信して、持続的な生存基盤としての良好な自然環境の保護と保全に貢献することを目指します。
- 2 **報文の類別** 自然保護および保全に資する原著論文、短報、総説、資料、報告、意見、書評（以下報文という）及び会記を会誌に掲載します。
  - （1）原著論文は内容が独創的で、学術論文として価値ある結論を含むもの。
  - （2）短報は内容が独創的で、学術論文として価値ある結論を含むが、まだ断片的あるいは萌芽的研究であり、速報性を重視し、刷り上がりがおおむね4ページ以内のもの。
  - （3）総説は自然保護および保全に関する各分野の研究成果を示しながら解説し、問題点と展望などを総括したもの。
  - （4）資料はデータそのものに公表の価値があると判断できるもの、あるいは有益な学術情報に関する報告で、いずれも 解析や考察を伴わないもの。
  - （5）報告は自然保護活動、研究活動あるいは各種会合の報告など、記録として残す価値のあるもの。
- 3 **投稿資格** 投稿者の少なくとも一人は会員とします。ただし編集委員長の依頼原稿はこの限りではありません。
- 4 **投稿の方法** 報文原稿は、以下の2つの方法のいずれかで投稿してください。いずれの場合にも、原稿には所定の「投稿原稿送付状」を添付してください。
  - （1）本文をワードファイル（または一太郎ファイル）に、表および図の全てを1つのpdfファイルにまとめて、電子メールに添付して送付する。
  - （2）本文、表、図の全てを2部（うち1部は複写物で可）印刷し、電子ファイルをCDなどの電子媒体に記録して郵送する。
- 5 **原稿の送付** 原稿送付や会誌に関する問い合わせは、別に定める編集事務局とします。
- 6 **原稿の受付** 別に定める執筆要領にしたがって書かれた報文原稿を受け付けます。編集事務局に届いた日をもって受付日とします。
- 7 **審 査** 受け付けられた原著論文、短報、総説、および資料の原稿は編集委員を含む複数の査読者によって審査されます。原稿の内容について編集委員長は、査読の結果に基づいて著者に修正を求めることができます。編集委員長が掲載不適当と判断した報文原稿については判断の理由を明記して著者に返送します。原著論文、短報、総説、および資料以外の報文でも、編集委員長が必要と認めた場合には審査に付することがあります。
- 8 **受 理** 審査に付された報文は審査結果を基に、編集委員長が掲載可と認めた日付をもって報文の受理日とします。審査に付されなかった報文は報文受付日を受理日とします。受理された報文原稿については、本文図表など全てを印刷したもの2部（うち1部は複写物で可）とともに、指定した書式の電子ファイルをCDなどの電子媒体に記録して編集事務局に送付してください。

- 9 校 正 著者校正は原則として初校に限り行い、誤植の訂正にとどめてください。
- 10 印刷費等の著者負担 報文印刷は16頁までを無料とし、超過分は原則として著者負担とします。別刷りは50部までを無料とし、それを越えた分は著者負担とします。これらの費用負担額については執筆要領に定めます。図及び写真のカラー印刷および英文校閲は、実費とします。
- 11 著作権の帰属 会誌に掲載される著作物の著作権（著作権法第21条から第28条までに規定するすべての権利を含む）は原則として、本機構に帰属します。
- 12 著作権利用の許諾 本機構に帰属する著作権を利用する場合は、本機構の許諾を必要とします。掲載論文中の図表等を自著の出版物に掲載する場合にも、本機構の許諾が必要です。ただし、会誌報文の著者は、著作者個人あるいは著作者所属組織などのウェブサイトなどにおいて、自らの著作物を本学会刊行物である旨の出典を明記して自由に掲載できるものとします。また、本機構は学術目的のために、著作権の一部を第三者に行使させる権利を有します。これら、著作権の利用・行使にともない、本機構に対価の支払があった場合には、本機構会計に繰り入れるものとします。
- 13 規定の改訂 この規定の改訂は編集委員会の議を経て、運営委員会の承認を得て行うものとします。

(2012年4月11日改訂)

## 「地域自然史と保全」執筆要領

- 1 報文原稿は和文または英文としてください。
- 2 和文原稿は1) 和文標題, 2) 和文著者名, 3) 和文所属（無くても良い）, 4) 英文標題, 5) 英文著者名, 6) 英文所属（無くても良い）, 7) 英文要旨（200語程度）, 8) 和文要旨（800字以内）, 9) キーワード（5語以内で、日本語と英語の両方を記す）, 10) 本文, 11) 引用文献, 12) 図版の説明, 13) 表, 14) 図の順に記述してください。付表等がある場合は末尾に加えて下さい。謝辞は原則として本文中の序文にあたる項目の最後に記してください。総説、資料、報告、意見、書評については、英文要旨およびキーワードは省略して構いません。
- 3 英文原稿は1) 英文標題, 2) 英文著者名, 3) 英文所属（無くても良い）, 4) 和文標題, 5) 和文著者名, 6) 和文所属（無くても良い）, 7) 英文要旨, 8) 英文キーワード（アルファベット順に5語以内）, 9) 英文本文, 10) 英文引用文献, 11) 和文要約（1400字以内。執筆者が外国人の場合は無くても良い）の順に記述してください。謝辞は原則として本文中の序文にあたる項目の最後に記してください。総説、資料、報告、意見、書評については、英文要旨およびキーワードは省略して構いません。
- 4 和文原稿はA4版用紙に12ポイントの活字を用いて30文字×30行で作成してください。
- 5 英文原稿はA4版用紙に12ポイントの活字を用いてダブルスペースでタイプし、約60文字25行で作成してください。
- 6 用語の表記については文部科学省学術用語集等に準じてください。和文原稿で生物の和名はカタカナ、学名はイタリック体で表記してください。和文原稿での岩石・鉱物名については漢字名称のある場合はそれを用いてください。

- 7 度量衡の単位はmks単位ではなく、SI単位系の表記を原則としてください。
  - 8 引用文献は原則として本文中に引用されたものに限り、かつ引用されたものすべてを記してください。文献の配列の順序は原則として著者名のアルファベット順とします。また著者が同一のものについては発表の年代順とし、同一著者の同一年のものについては年号のあとにアルファベットを付して2006a, 2006bのように区別してください。各種文献の記載方法については、以下の例に従ってください。
- 有田八郎. 1981. 野鳥とスズメの個体数比率による自然度の判定. 関西自然保護機構会報, 6 : 1-6.
- Hubbell, S. P. & R. B. Foster. 1983. Diversity of canopy trees in a neotropical forest and implications for conservation. In: Tropical rain forest: ecology and management. (eds. Sutton, S. L., T. C. Whitmore, & A. C. Chadwick), pp. 25-41. Blackwell, Oxford.
- 北村四郎・村田源. 1979. スダジイ. 「原色日本植物図鑑木本編II」(北村四郎・村田源著), pp. 278-279. 保育社, 大阪. (注1 図鑑の中のスダジイの項目のみの引用例).
- ・——. 1979. 原色日本植物図鑑木本編II. 545pp. 保育社, 大阪. (注2 図鑑全体の引用例).
- Lack, D. 1968. Ecological adaptation for breeding in birds. 409pp. Methuen, London.
- May, R. M. (ed.). 1976. Theoretical ecology: principles and applications. 317pp. Blackwell, Oxford.
- マックスウェル, K. E. 1974 (小泉明ほか監訳, 1974). 生命の環境・下. 604pp. 講談社, 東京.
- 前田保夫. 1980. 臨海平野の表層部に残る縄文海進の記録. 月間地球, 2 (1) : 1-6.
- 三浦慎悟. 1980. 奈良公園における日本ジカの社会構造. オスの社会組織. 「昭和54年天然記念物「奈良のシカ」調査報告」((財)春日顕彰会編), pp. 1-11. (財)春日顕彰会, 奈良.
- 中村登流. 1973. 鳥獣の世界から. 「自然保護を考える」(信州大学教養部自然保護講座編), pp. 95-113. 共立出版, 東京.
- Tanaka, A., Y. Yamamura & T. Nakano. 2008. Effects of forest-floor avalanche disturbance on the structure and dynamics of a subalpine forest near the forest limit on Mt. Fuji. Ecological Research, 23 : 71-81.
- 9 インターネット上の資料の安易な引用は極力控えてください。ウェブサイト上の情報を引用する場合には、サイトの信頼性に十分留意し、本文中に管理者(発行者)、アドレス、参照年月を明記してください。引用文献のリストには記載せず、記述は下記の例および最新号の形式に準じてください。
- 例) 気象庁アメダス (URL : [http://www.jma.go.jp/jp/amedas\\_h/](http://www.jma.go.jp/jp/amedas_h/) 2003.9参照) に掲載されている2008年の降水量データから算出した。
- 10 表は1つつ別紙に書き、1表の大きさは原則として1ページに印刷できる限度以下とします。表の説明はその上部にまず「表1」と書き、ついで表題をあげたのち、本文をよまなくても理解出来る程度に説明を加えてください。なお本文中にその表を置きたいおよその位置の原稿右欄外に「表1」のように朱書きしてください。
  - 11 図(写真を含む)はできるだけ少数にとどめ1つつ別紙としてください。図はそのまま製

版できる状態としてください。図は印刷されるときの大サイズの1.5倍ないし2倍大（長さで）としてください。薄手の用紙に書いた場合は白色の厚手台紙に貼ってください。また上端欄外に図の番号と著者名を朱書きしてください。図の説明は別紙にまとめて書き、その紙に本文に続く通しのページ数を打ってください。各図の説明は、まず「図1」のように書き、ついで表題をあげたのちに、本文を読まなくても理解できる程度に説明を加えてください。なお本文中にその図を置きたいおよその位置の原稿右欄外に「図1」のように朱書きしてください。

- 12 投稿の際には投稿原稿送付状（会誌各巻1号あるいは本会ウェブページに掲載）を添付してください。
- 13 原図の送付は、査読終了後の最終原稿送付時とします。
- 14 無料分の別刷り50部を除く、有料分の必要別刷り数を50部単位で注文表に記載してください。
- 15 刷り上がり16ページを超過した場合、1ページあたり5,000円、原則として著者負担とします。別刷りは50部までを無料、それを超えた分は1部100円で、著者負担とします（増加分は10部単位で申し込んでください）。なおPDFファイル（CD-R版または電子メール）を希望する場合、1ファイル2000円とします。
- 16 著者校正で本文や図表を変更することは原則として認めません。
- 17 この要領は会誌の各巻の1号に掲載し、2009年5月20日以降に投稿された原稿から適用します。要領の改訂は、編集委員会の議を経て行います。
- 18 会誌編集事務局を下記におきます。

（2011年4月21日改訂）

#### 会誌編集事務局

〒574-8530

大阪府大東市中垣内3-1-1

大阪産業大学大学院人間環境学研究科（前迫研究室）

電話 072-875-3001

FAX 072-871-1259

E-mail [maesako@due.osaka-sandai.ac.jp](mailto:maesako@due.osaka-sandai.ac.jp)





## <編集後記>

### 氾濫原湿地生態系の保全に関連して

梅雨入り宣言以来、近畿地方ではまったく雨が降らない。むしろ真夏日が続き、人間も動植物もぐったりしていたが、6月15日に16日ぶりとなる雨が降った。イネの苗つけが終わった田んぼからもカエルの鳴き声がきこえ、ほっとする。

さて今号ははからずも、氾濫原湿地生態系に関連するふたつの特集を掲載することとなった。ひとつはラムサール条約に登録されている福井県中池見湿地“Nakaikemi-shicchi”に大きなダメージを及ぼすことが懸念される北陸新幹線敷設計画に関する問題、もうひとつは京都府亀岡市の絶滅危惧種、天然記念物アユモドキの生息地に建設が予定されている専用球技場の問題である。

2012年8月に発表された北陸新幹線敷設計画が、「日本列島の氾濫原湿地を代表し、今では絶滅危惧種となっているミズトラノオ、ミズアオイ、ミズタガラシ、デンジソウ、サンショウモなどが生育する(2013年2月に日本生態学会が国土交通大臣など関係機関に提出した要望書より抜粋)」中池見湿地の一部を横切るにもかかわらず、詳細な環境影響評価の調査が実施されないことはきわめて大きな問題である。これを受けて2013年3月3日に大阪市立自然史博物館で緊急シンポジウム「中池見湿地の保全と新幹線建設問題」が開催され、約80名が参加、活発な議論が展開された(KONC主催・日本生態学会近畿地区会と共催)。このときのシンポジウムをもとにした記事を掲載している。表紙の写真は現地で中池見の保全に尽力されている笹木 進氏に提供頂いた。現地でのフィールドシンポジウムも秋に予定されている。会員のみなさまにはふるってご参加いただきたい。

もうひとつの特集である「国内希少野生動植物種」アユモドキは、桂川が亀岡盆地に形成した大きな氾濫原に生息している。KONCは建設予定地に生息する本種および生物群集の保全を目的として、科学的調査の必要性、関係機関との連携、専門家委員会の設置要望をもとめて3月12日に亀岡市・京都府に対し要望書(本誌に掲載)を提出した。これに関連して琵琶湖淀川水系と岡山県旭川水系・吉井川水系のアユモドキの保全と生態に関する記事を掲載している。これら特集にあたってKONC会員外の笹木氏や阿部氏にご寄稿いただいた。深くお礼申し上げる。

生態学会近畿地区保護専門委員会委員長岩崎氏による巻頭言、興味深い研究テーマに取り組まれた3編の投稿原稿、信太山丘陵開発計画中止の報告、拙書に対する忌憚ない書評など多彩である。1年ぶりの掲載となるシリーズ「自然へのアプローチ」は、京都大学大学院農学研究科森林科学専攻森林生物学分野で展開されている野生生物保全の多様なアプローチを高柳氏に紹介いただいた。本誌に投稿・寄稿頂いた著者のみなさまに厚くお礼申し上げる。

日本において氾濫原湿地生態系が維持されている地域は限られている。KONCの活動がこの希少な生態系に依存している生物群集の保全につながることを願ってやまない。

(前迫ゆり)

## 正誤表

関西自然保護機構第33巻第1号に掲載した下記の論文に誤記がありました。  
深くお詫び申し上げますとともに、ここに訂正させていただきます。

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科  
(現) 一般財団法人 自然環境研究センター 秋田耕佑

掲載論文：「大阪府南部におけるコガタブチサンショウウオ *Hynobius yatsui* Oyamaの分布と生息環境」  
P.18 Fig. 1 のキャプション

### 【正】

Fig. 1 Distribution of sites where the salamander, *H. yatsui*, was found (○) or not found (●) in the Izumi and Kongo-Ikoma Mountain Range between March and December in 2008. Records from literature (▲) are also plotted (See Table 2). The numbers shown in the map refer to Table 1. White part indicates the area lower than 250m in altitude and shaded part the area of 250m and higher.

### 【誤】

Fig. 1 Distribution of sites where the salamander, *H. yatsui*, was found (●) or not found (○) in the Izumi and Kongo-Ikoma Mountain Range between March and December in 2008. Records from literature (▲) are also plotted (See Table 2). The numbers shown in the map refer to Table 1. White part indicates the area lower than 250m in altitude and shaded part the area of 250m and higher.

# 関西自然保護機構

## 名誉会員

千地 万造 宮本 憲一

## 会長

石井 実

## 副会長

山西 良平

## 運営委員

|       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 上原 一彦 | 奥平 敬元 | 角野 康郎 | 神崎 護  | 熊井 久雄 |
| 佐久間大輔 | 布谷 知夫 | 野寄 玲児 | 平井 規央 | 前迫 ゆり |
| 村上 興正 | 和田 恵次 | 和田 岳  |       |       |

## 編集委員会 (\*委員長, \*\*副委員長)

|        |       |        |       |       |
|--------|-------|--------|-------|-------|
| 奥平 敬元  | 角野 康郎 | 神崎 護** | 幸田 正典 | 高柳 敦  |
| 立澤 史郎  | 布谷 知夫 | 原田 泰志  | 平井 規央 | 藤井 伸二 |
| 前迫 ゆり* | 山倉 拓夫 | 和田 岳   |       |       |

## 会計監事

原田 泰志 森本 幸裕

## 事務局長

山西 良平

## 事務局員

大久保その子

関西自然保護機構への入会希望、その他のお問い合わせは、事務局までお願いいたします。

## お 願 い

1. 本機構では会誌の他に「KONCニュース」を年若干回発行しています。各地の自然保護に関するニュースを2000字以内でお寄せ下さい。
2. 本機構では、次のものについて原則として発表先を問わず業績番号をつけることにしましたのでご協力下さい。
  - 1) 本機構が事業として行った調査研究成果
  - 2) 本機構が助成金を交付した調査研究成果
  - 3) 会誌その他, KONC出版物に掲載した調査研究論文
  - 4) 上記研究から派生して得られた結果, あるいは会員が業績番号を付した方がよいと判断されたもの本機構の出版物以外に投稿された場合の業績番号を入れる位置は, 各出版物の規定に従ってください。ただし, 和・欧文とも下記の表現をお使い下さい。  
関西自然保護機構業績 第 号  
Contribution from Kansai Organization for Nature Conservation,  
no. \_\_\_\_\_  
番号はその都度, 編集委員会にお問い合わせ下さい。
3. 投稿規程は, 会誌の奇数号に掲載します。

地 域 自 然 史 と 保 全 35巻 1号 (通算65号) 2013年 6月30日発行

編集発行人 関西自然保護機構

事 務 局 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪自然史センター気付  
TEL 06-6697-6262 FAX 06-6697-6306 振替口座 00990-2-16679

編集事務局 〒574-8530 大阪府大東市中垣内 3-1-1  
大阪産業大学大学院人間環境学研究科 (前迫研究室) 気付  
TEL 072-875-3001 FAX 072-871-1259

印 刷 所 光荣堂印刷株式会社

## 目 次

|                                                      |                                                                           |
|------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 表紙の言葉 中池見湿地のミズトラノオ                                   | 笹木 進                                                                      |
| 巻頭言                                                  |                                                                           |
| 海洋生物の保護：その現状と課題                                      | 岩崎敬二 1                                                                    |
| 特集1 中池見湿地の保全と新幹線建設問題                                 |                                                                           |
| シンポジウム「中池見湿地の保全と新幹線建設問題」を開催して                        | 村上興正 3                                                                    |
| 北陸新幹線中池見ルートアセスメントの内容並びに今回計画の概要と問題点                   | 笹木智恵子 5                                                                   |
| 中池見湿地における水生動物の多様性とその変化                               | 平井規央・森岡賢史・石井 実 11                                                         |
| 特集2 国内希少野生動植物種「アユモドキ」の保全：亀岡市の競技場建設に関連して              |                                                                           |
| 琵琶湖淀川水系のアユモドキの現状と保全                                  | 上原一彦 17                                                                   |
| アユモドキ ( <i>Parabotia curta</i> ) を保全することの難しさ         |                                                                           |
| 一岡山県における保全活動とその課題解決に向けて                              | 阿部 司 23                                                                   |
| 原著                                                   |                                                                           |
| 石川流域におけるカワバタモロコの生活史—市民によるモニタリング調査の成果—                |                                                                           |
| 吉村元貴・細沼美穂・柴田園江・吉村宏弘・堀井宏行・林 紀子・北井美喜子・林 武彦・升方拓郎・石田真隆   | 33                                                                        |
| 短報                                                   |                                                                           |
| 水田のナゴヤダルマガエル幼生は中干しまでにカエルになれるか？                       | 上瀧七美・大塚泰介 45                                                              |
| 報告                                                   |                                                                           |
| 福井県中池見湿地に生息する淡水魚類                                    | 山野ひとみ・増田 茂・北川哲郎・武内啓明・川瀬成吾・野口亮太・小西雅樹・田中大喜・森下 匠・池田昌史・井藤大樹・乾 偉大・小田優花・細谷和海 53 |
| 和泉市信太山丘陵の開発計画中止の経緯—自然環境の保全・活用への道のり—                  | 花田茂義 61                                                                   |
| 自然へのアプローチ—今、若い研究者がとっていること—16                         |                                                                           |
| 野生生物の保全のための多様なアプローチ                                  | 高柳 敦 67                                                                   |
| 書評                                                   |                                                                           |
| 「世界遺産春日山原始林—照葉樹林とシカをめぐる生態と文化—」                       | 神崎 護 77                                                                   |
| 四手井賞                                                 |                                                                           |
| 平成24年度四手井綱英記念賞 選考理由                                  | 79                                                                        |
| 要望書                                                  |                                                                           |
| 亀岡市保津町上中島における専用競技場の建設に関しアユモドキをはじめとする淡水生物群集の保全への配慮の要請 | 81                                                                        |
| 投稿規定                                                 | 82                                                                        |
| 執筆要領                                                 | 83                                                                        |
| 編集後記                                                 | 87                                                                        |

## CONTENTS

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |    |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| COVER PICTURE                                                                                                                                                                                                                                                                                               |    |
| Sasaki, S.: <i>Pogostemon yatabeensis</i> of "Nakaikemi".                                                                                                                                                                                                                                                   |    |
| KONC SAYS                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |    |
| Iwasaki, K.: Marine nature conservation, administrative management and natural history.                                                                                                                                                                                                                     | 1  |
| FEATURES: Environmental impact of the Shinkansen construction on the biodiversity conservation of Nakaikemi Wetland.                                                                                                                                                                                        |    |
| Murakami, O.: Comment on the Symposium "Environmental impact of the Shinkansen construction on the biodiversity conservation of Nakaikemi Wetland".                                                                                                                                                         | 3  |
| Sasaki, C.: Construction plan of the Shinkansen and conservation of the Nakaikemi Wetland : The problems of environmental assessment of construction plan of the Shinkansen in 'Nakaikemi'.                                                                                                                 | 5  |
| Hirai, N., Morioka, T. & Ishi, M.: Species diversity of aquatic animals in the Nakaikemi marsh, Fukui Prefecture, Japan.                                                                                                                                                                                    | 11 |
| FEATURES: Conservation of the endangered kissing loach : Against the plan to construct a large scale ball game stadium at Kameoka, Kyoto.                                                                                                                                                                   |    |
| Uehara, K.: Status and conservation of the kissing loach distributed in the Lake Biwa - Yodo River system.                                                                                                                                                                                                  | 17 |
| Abe, T.: The difficulty of the conservation of Japanese kissing loach ( <i>Parabotia curta</i> ).                                                                                                                                                                                                           | 23 |
| ORIGINAL ARTICLES                                                                                                                                                                                                                                                                                           |    |
| Yoshimura, M., Hosonuma, M., Shibata, S., Yoshimura, M., Horii, H., Hayashi, N., Kitai, M., Hayashi, T., Masukata, T. & Ishida, M.: Life history of the golden venus chub <i>Hemigrammocypis rasborella</i> in the Ishi River basin, Osaka Prefecture. : Results of investigation monitored by the citizen. | 33 |
| SHORT COMMUNICATIONS                                                                                                                                                                                                                                                                                        |    |
| Kamidaki, N. & Ohtsuka, T.: In a paddy field, can tadpoles of <i>Pelophylax porosa brevipoda</i> become frogs in time to escape the mid-season drainage?                                                                                                                                                    | 45 |
| REPORTS                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |    |
| Yamano, H., Masuda, S., Kitagawa, T., Takeuchi, H., Kawase, S., Noguchi, R., Konishi, M., Tanaka, D., Morishita, T., Ikeda, M., Ito, T., Inui, T., Oda, Y. & Hosoya, K.: Freshwater fishes from the Nakaikemi wetland.                                                                                      | 53 |
| Hanada, S.: The cancellation of the development plan of Shinodayama Hills and its history.                                                                                                                                                                                                                  | 61 |
| Takayanagi, A.: Approach to Nature -The ambition and reality of young researchers- 16.                                                                                                                                                                                                                      |    |
| Multiple approaches to conservation and restoration of wildlife.                                                                                                                                                                                                                                            | 67 |
| BOOK REVIEWS                                                                                                                                                                                                                                                                                                |    |
| Kanzaki, M.: World Cultural Heritage 'Kasugayama Primeval Forest' : Ecology and culture of the lucidophyllus forest - sika deer relations.                                                                                                                                                                  | 77 |
| THE SHIDEI PRIZE                                                                                                                                                                                                                                                                                            |    |
| Editorial committee of KONC : The selection reason for the Shidei Tsunahide Prize in 2013.                                                                                                                                                                                                                  | 79 |
| PETITION                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |    |
| Submission of a request for conservation of fresh water wildlife including an endangered loach, <i>Leptobotia curta</i> , at a candidate site for a soccer field in Kameoka City, Kyoto Prefecture to Governor of Kyoto Prefecture and Mayor of Kameoka City.                                               | 81 |
| CONTRIBUTION RULES                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 82 |
| STYLE SEAT                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 83 |
| EDITORIAL NOTES                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 87 |